

平成31年1月17日、町は新年賀詞交歓会を開催。町内各界から180人が出席しました。式辞で金子正一町長は「町制施行50周年を迎えた邑楽町にとって、町制施行100年を見すえたこれからの50年の第一歩である今年一年を力強く歩んでいきたい」とあいさつしました。



改元を機会に新たな一歩

過去を糧に
未来を見すえ
現在を重ねる

人口減少、超高齢社会、空き家の増加、コミュニティの希薄化など、まちが抱える問題は、年々複雑で多様なものとなり、まちづくりにも新しい挑戦が求められています。

こうした社会環境の変化に対応するためには、行政だけではなく、自治会や町民団体など、たくさんのかたがたを主体として連携をしていくことが重要となってきます。

新しい元号を迎える今年。邑楽町も気持ちを新たに切り替える絶好の機会です。抱負や考えなどを心に誓う人も多いのではないのでしょうか。

町には活発なコミュニティが存在し、さまざまな活動を展開している人たちがたくさんいます。町ではこれからもそうしたコミュニティをベースとした地域の特性に応じた活力あるまちづくりを進めていきます。

そこで今回は、町民の皆さんと関わりの深い団体や組織の代表者など36人に「次の50年へ大きく一歩」をテーマにお話を伺いました。



group 36

順不同

50年前は高度経済成長の真っ只中、少子高齢化時代が来るとは誰も予想がなかったが、これからの50年はどうでしょうか。高齢化介護現場での人手不足。さまざまなことが深刻化していくと予想されます。これからは地域の医

邑助けネットの構築を



築地 庸雄さん (77歳) 町区長 会長

療・介護・福祉の分野全体を巻き込み、お互いさま地域づくりの「邑助けネットワーク」活動が重要。区長会としても全面的にバックアップしていきます。そして、全ての町民が住んで良かったと思われようなまちづくりに貢献します。

町区長会…区長34人、代理区長66人でふれあいサロンや地域内での問題点、困り事相談の解決。また、行政とのパイプ役として奔走。

選挙は私たち一人一人の意見を暮らしや社会づくりに反映させる大切な機会。民主主義の基本となるもので。しかし、近年の投票率の低下は顕著になっています。

明るい未来のために



笠原 一夫さん (73歳) 町選挙管理委員会 委員長

引き下げられました。若い世代の人たちの積極的な参加により、全体の投票率が向上し、町や国が良い方向へと向かうことにつながるのではないのでしょうか。そのためにも私たちは、選挙に関心を持ってもらう啓発活動に取り組んでいます。

町選挙管理委員会…町議会から選出された4人で構成。町長や町議会議員などの選挙の管理、選挙人名簿確認、有権者への啓発活動などを行う。

町の長い歴史のなか、議会ではさまざまな条例や予算など多くの議案が審議されてきました。その時々議員は、誰しもが町民の幸せを第一に考え、採決をしてきたのだと思っています。

全町民に慈愛を



小島 幸典さん (68歳) 町議会 議長

でいくことだと考えています。これから少子高齢化や人口減少など進んでいくと思いますが、どのような時代であっても町民と一丸となり、住みよい町をつくって行きたいと願っています。今後ともご支援をお願いいたします。

町議会…選挙で選ばれた議員で組織。町の条例の制定や予算などの重要なことを決定するための議決機関で、行政とともに町政を支える。

少子高齢化の進行と地域社会の変化により、生活困窮者の増加や子どもの貧困、虐待、高齢者への特殊詐欺といった問題は年々複雑化しています。特に高齢者の孤独の防止と、子育て家庭を巡る課題の解決は急務です。地域とのつなが

暮らしに安心を



内田 雅行さん (57歳) 町民生委員児童委員協議会 会長

りで問題解決を図るために、地域の関係者や関係機関として行政とのさらなる連携の強化を進めます。地域の皆さんが抱える問題を一緒に解決し、安心して暮らせる地域づくりのために力を合わせて活動していきます。

町民生委員児童委員協議会…現在町には民生委員児童委員が52人いて、各行政区で町民に必要な福祉支援を行なっている。

日本の高齢化は急激に進み、6年後には75歳以上の高齢者が2千180万人に達する勢いです。未曾有の超高齢化社会では、介護問題などが深刻化する。地域で支え合う福祉システムの構築が欠かせない課題となります。

地域の変貌と福祉の将来



田部井 猛夫さん (71歳) 町社会福祉協議会 会長

また、増加する外国人や障がい者など、さまざまな人々が共に生きる、共生社会の実現も忘れてはなりません。将来、AI(人工知能)の活用で便利な生活が実現しても、町民自身が持つ助け合う力こそが幸せを実現する鍵なのではないでしょうか。

町社会福祉協議会…社会福祉法に規定された団体で、町民の意思や会費により設立、運営している。地域福祉のさまざまなサービスを提供。

会では「生きがいと健康づくり」をモチーフに積極的に活動しています。現在、生活スタイルの多様化で定年後も仕事に従事している人が多いため、支部長の後継者問題があります。団塊世代の人たちが加入して活躍されること

生きがいと健康づくり



齋藤 吉平さん (88歳) 町老人クラブ連合会 会長

を期待しています。老人クラブ活動を通じて、お互いに助け合いい、仲良く、元気に楽しく行事に参加することが健康寿命を延ばす秘訣だと思います。これからも関係諸団体と協力し、会員皆さまの「生きがいと健康づくり」に努めます。

町老人クラブ連合会…会員数は1,004人(準会員含む)。輪投げ、グラウンド・ゴルフ、ダンス、芸能大会などの活動を行っている。

複雑多様化した近年の災害に対応するためには、地域防災のリーダーを担う消防団の存在意義は大きいものだと考えています。少子高齢化、地域コミュニティの変容などが進む中、町の行事や花火大会の警戒などを通じ、地域に根差し

「変化への対応」がテーマ



大塚 栄彦さん (58歳) 町消防団 団長

た取り組みを実施しています。邑楽消防団の強みは、地域を愛する町民が志一つに集まっていることです。次の50年に向けて「変化への対応」をテーマに団員一人一人が地域の期待に応えられるよう活動していきます。

町消防団…消防団長以下、団員121人で構成。自分の町は自分で守るという精神に基づき、地域に密着して生命と財産を守る活動を行う。

少子高齢化が進み、数年後には、若者より高齢者が多い町になってしまおうのでしょうか。世間では高齢者の車の運転による事故が多発しています。そんな事故が無いように指導していくのも私たちの役目です。

今後の高齢者への指導



内田 定良さん (70歳) 町交通指導隊 隊長

自動運転や安全装置の普及により、事故が減少するかもしれない。しかし、事故が無くならないわけではないでしょう。そのためにも高齢者の交通安全教室などの開催を考えていきます。安全安心に暮らせるように交通安全から町を支えます。

町交通指導隊…隊員は20人。小学校的の自動車教室やマラソン大会、おうち祭りや産業祭の他、各地区のお祭りなどで交通指導をしている。

健康づくり推進協議会、町の保健事業と健康づくり施策を総合的かつ体系的に審議し、推進する場となっています。全ての町民が健康で生き生きとした生活を送るために必要なことは、何なのか。それぞれの職種から見えてくる

健康寿命を延ばそう



寺内 政也さん (61歳) 町健康づくり推進協議会 会長

る生活習慣の問題点や健康に対する課題をかたちにして、町民にフィードバックし、予防に取り組むことにより健康寿命の延伸を図ります。50年後の邑楽町が、今以上に元気な町として発展していることを期待しています。

町健康づくり推進協議会…町の総合的な健康づくり対策を推進するため、基本方針や実践化についての協議を行う機関で、会員は10人。

福祉バザーや1円玉募金の活動は、町民の皆さまの大切な真心に支えられ、続けていくことができている。深く感謝いたします。私たちは常に「お役に立ちたい」「楽しみたい」と活動を続けてきました。

笑顔の花を咲かせたい



松島 たい子さん (81歳) 町ボランティアグループ 会長

先人たちが築いた「福祉の心」を受け継ぎ、「二人でも多くの人を笑顔に」の思いを抱きながら、思い合う心の種まきを続けたいと思っています。次の50年を担う子孫たちには、その花を咲かせてくれることを期待しています。

町ボランティアグループ…結成40年が過ぎ、メンバーは500人を超える。地域に根差したボランティア活動は多岐にわたる。

町の子どもたち、みんなのおじいちゃんになりたいと、会議に立候補しました。会議では①学童保育所・保育園の待機児童問題②家庭だけで子育てをしている親子の支援③育ちに困難を抱える子どもたちの支援④子育てに悩む親たち

みんなのおじいちゃんに



川島 功さん (73歳) 町子ども・子育て会議 会長

の支援⑤学校へ行きづらさを感じている子どもたちへの応援など課題は山積みです。50年前、町制施行パレードを冷ややかに見ていた18歳の私。今、子どもから大人に育つ青少年の建設的な批判に応えられるかが問われています。

町子ども・子育て会議…町の教育・保育施設の利用定員の設定や子ども・子育て支援施策について協議する団体。15人の委員で構成。

日本の酪農の現状は、酪農家の高齢化や後継者不足など、戸数減少が顕著です。この影響で飼養頭数や生乳生産量は年々減少しています。また、飼料高騰や初妊牛の高止まりなど、今後も厳しい状況は続くと思われま

これからの酪農業



立澤 啓太さん (52歳) 町酪農組合 組合長

農家には、全て後継者がいます。将来の酪農を託された私たち後継者にとって今は頑張りどころです。これまでの課題の一つを乗り越えてきた先人たちのように、私たちも後に残せるよう尽力しなければなりません。感じていきます。

町酪農組合…町内酪農家5軒からなる団体。経営体質の強化、管理技術と知識の向上、組合員の親睦を図るための活動をしている。

農家に嫁いで35年。義母から引き継いだ生活研究グループの活動から始まり、あいあいセンターの活動に関わって23年。引込み思案な私も今や組合長になり、周囲の皆さんに助けてもらいながら頑張っています。これからも、若い世

愛される場を目指す



富岡 幸子さん (古郷十軒) 町農産物処理加工施設利用組合 組合長

代へ地元で伝わる食文化の伝承や地域の皆さんに愛され、地産地消の旗印になれるような直売所を目指し頑張っています。また次の50年に向けて、私たちの後を継いでくれる仲間を見つけ、大きな一歩を踏み出せると良いですね。

町農産物処理加工施設利用組合...施設の愛称は「あいあいセンター」。新鮮で安全をモットーに直売所やそば食堂、農村レストランを運営。

町土の50%が農地である邑楽町。その農業は、先人の創意工夫と恵まれた肥沃な大地で生産された農産物により、発展を遂げてきました。今後は担い手激減、輸入農産物増大など苦難があっても、AI(人工知能)を活用した技

若者は気付いている



小澤 康弘さん (寺中) 町認定農業者協議会 会長

術革新などで、スマート農業が展開されると確信しています。そして若者は今、農業はやりがいのある仕事だと、何より「人は、食べることしか生きられない」、農業は生命産業であり、暮らしを守る成長産業であることに気付いていると思います。

町認定農業者協議会...国の認定農業者制度で認定された農業者のうち69人が会員。各経営体が経営改善・発展を遂げるため活動している。

農業にとって最大の課題は後継者不足です。町内の認定農業者のうち、後継者がいる農家は約1割。耕作できない農地も増えていきます。農業委員会としても、最重要課題として後継者の育成に取り組んでいますが、思うように進まないのが実

農家の後継者不足対策



天谷 豊さん (川州) 町農業委員会 会長

情です。これからは、海外からの労働力の受け入れも一つの選択肢として、後継者の育成に努めていきたい。若い担い手が、生命の源となる食料の生産に、誇りを持って取り組んでいけるようにすることが重要だと考えます。

町農業委員会...町長が任命する10人の委員で構成。同会が委嘱する15人の農地利用最適化推進委員と一体となり、農地の保全・活用などを行う。

白鳥の飛来する多々良沼、ガバ沼など自然が息づく緑豊かな環境を教育行政に関連付けて児童生徒を育てます。各生涯学習施設の充実を目指して群馬に誇れる伝統芸能の拠点を創ります。町民一人一人が気軽に取り組める「町民1スポーツ」を

学ぶなら、邑楽町



藤江 利久さん (坪谷) 町教育委員会 教育長

目標に体育施設の充実やイベントの工夫でスポーツ推進の町を創ります。誰もが気軽に集い、軽スポーツを楽しめる環境で町民の健康増進を図ります。総じて「学ぶなら、邑楽町」と言われるような教育環境の整備に努めます。

町教育委員会...町長が議会の同意を得て任命した教育長と4人の委員で構成。町の「教育」をつかさどる機関で教育長の統轄の下に事務処理を行う。

私は24年間町内の小中学校に勤務し、邑楽町の人・文化・風土に親しんできました。その中で関わった子どもたちや保護者の皆さまから強く感じたのは「誰もが邑楽町が大好きなのだ」ということです。保護者には町内出身者が多く、自分

邑楽町大好き！！



柴崎 和美さん (明野) 町学校長連絡会議 代表

が育った邑楽町でわが子も育てたいと願っています。私たち学校の教職員は、このような保護者の皆さまの願いと期待を受け、邑楽町が大好きな、たくましい子どもたちを今後育てていきます。

町学校長連絡会議...町内6校の各校長により組織。学校教育の目標達成や、課題解決への方針や情報を共有し、教育振興に寄与すべく活動する。

平成30年度は中央公民館「邑の森ホール」ができたことにより、文化や芸術関係の行事に参画する機会がより一層増えました。また、新たに「文化功労賞」が新設され、2人のかたに授与することができました。社会教育の範囲は多

社会教育の未来



濱田 貞代さん (新中野) 町社会教育委員会 議長

岐にわたります。文化芸術から社会体育まで、今まで積み上げてきたさまざまな分野をこれからの50年も充実させていければと思っています。これからも皆さまとともに頑張っていきたいと思います。よろしくお願います。

町社会教育委員会...教育委員会の諮問に応じ、意見を述べる他、必要な調査研究を行い、社会教育に関する諸計画を立案している。

町農業を担う若手の農業者で組織する農業青年会議は、他団体との交流会や視察研修などを、自分たちで企画し行っています。こうした活動は、お互いの農業技術の向上や仲間づくりのきっかけになるなど、とても有益です。

未来の農業を支えます



青木 克行さん (寺中) 町農業青年会議 会長

私たちのような若い農業者が非常に少なくなってしまった今だからこそ、活動を通じて若手間の結束を深めていきたいと思っています。そして、活動の成果を少しでも町の農業発展に役立てることができると、努力していきたいと思っています。

町農業青年会議...町内在住または町内で就農している農業者で組織。活動を通じて会員相互の親睦と資質向上を目的としている。

昭和35年6月に商工会設置法が施行され、商工業者の事業繁栄と地域の発展のために、さまざまな活動を行ってきました。しかし、近年は会員を取り巻く社会経済環境が急激に変化する中では、会員ニーズを再確認し、サービス向上

全ては会員のために



中繁 基さん (上野原) 町商工会 会長

につなげることが不可欠だと考えます。会員減少や事業継承など大きな課題がありますが、50年先を見ます。『行きまず、聞きまず、提案します』のテーマの下、会員企業の繁栄と地域社会発展のための事業を推進する所存です。

町商工会...会員数520人。商業部、工業部、建設部、青年部、女性部、役員30人で組織。商工業者の繁栄と地域社会の発展を目指している。

平成14年にガバ沼の近隣住民が中心となり当会を設立しました。町の観光資源である白鳥が、越冬の時期により過ごしやすいよう現在まで活動を進めてきました。ここ数年、メディアの報道や県立多々良沼公園が整備されたこと

「水と緑と白鳥」の故郷



木原 友昭さん (朝原) 町白鳥を愛する会 会長

により、冬季のシーズン中に、ここを訪れる人の数もかなり増えてきています。「水と緑があつて白鳥がいる」今後はそんな故郷の風景を守りながら、町の活性化に結びつくような活動をさらに活発にしていけたらと考えています。

町白鳥を愛する会...会員数30人。白鳥飛来地の環境整備、白鳥への給餌、白鳥まつりの開催などを通じて、町や地場産品のPRを目的に活動。

弓矢は後方へ引けば引くほど遠くまで飛ぶ。この真理は過去の歴史を知ることが未来への構想力を鍛える力となる、と読み換えられるでしょう。過去は今に生きています。文化財保護という課題も地続きの過去を知ることで、それ

未来の展望は過去から



川島 健二さん (天王元) 町文化財保護調査委員会 会長

は日常の風景の中にも存在するでしょう。5人の委員は、地理、植物、考古、民俗、建築学の多様な立場から町の歴史風土を見つめています。委員が分担して受け持つ本紙「大好き文化財」のコーナーもそのリポートとしてご愛読ください。

町文化財保護調査委員会...文化財の発見、再確認。必要な保護、調査、啓発活動を通じて、町の歴史風土への理解を深めることを主眼とする。

町青少年推では、青少年の健全育成、青少年の犯罪被害防止に力を注いでいます。コミュニケーションが失われ、人間関係が希薄になっている現在の社会では、子ども若者がそれぞれの年代でたくさんの人々と関わりを持ち、いろいろな

未来が変わる



小島 正宏さん (天王元) 町青少年育成推進員連絡協議会 会長

経験をすることがとても重要であると思えます。そんな機会を増やしていくために、まずは大人が実践していくことが必要ではないでしょうか。「大人が変われば子どもが変わる。子どもが変われば未来が変わる」と。

町青少年育成推進員連絡協議会...各行政区1人ずつ計34人で構成。春・夏・冬の3季パトロールや町青少年健全育成推進大会を実施している。

町文化協会が発足し、平成29年度に40周年を迎えました。それより前、ご高齢者が魂をゆさぶるような叫びで「昔、里神楽、豊年万作踊りがあつた。もう一回見てえ...」この一言がきっかけで昭和48年4月、社会貢献活動の一環として「町伝統文

文化の花を咲かせます



渡邊 幾雄さん (坪谷) 町文化協会 会長

化掘り起こし会」を個人で立ち上げました。近年、文化協会にも課題はありますが、文化こそ町の宝、遺産です。新元号を迎え、文化が衰退、形骸化しないように行政地域、会が共有の理念を有し、三位一体となり真摯に取り組んでいます。

町文化協会...昭和52年10月1日に発足し、会員は207団体3,323人。芸術文化の普及振興や会員相互の親睦を図っている。

子どもたちが目覚ましい成長を遂げる幼児期。子育ての中で子どもたちが成長していく姿を見ることは、私たち保護者にとって、この上なくうれしいこととす。その成長のためには、家庭や行政、地域が力を合わせ、子どもたちにとってより良

子どもの成長こそ喜び



早川 尚美さん (古郡30区)
町幼稚園・こども園PTA連合会 会長

環境をつくるのが大切だと考えます。子どもたちの輝きや笑顔は私たち大人にとって「元気の源」。それがこの先も続くように、家庭や行政、地域の皆さんで手を携え、協力してPTA活動を盛り上げていければいいな、と思っています。

町幼稚園・こども園PTA連合会…町の幼児教育の発展と向上のために組織された会。PTAと各園で連携を図りながら、調査研究を行う。

PTA活動の体制や活動内容は各学校でさまざまです。近年、共働き家庭の増加で「今までのPTA活動を見直して、効率のよい運営を」という考えの下、活動の改善を進める学校もあります。今後、活動を維持するためには、より効率

活動は子どもたちのため



川田 直也さん (坪登22区)
町小中学校PTA連合会 会長

的に、誰もが快くできる」という体制づくりが求められています。PTA活動は、学校のため、地域のためでもあります。それらを含めた活動の全てが、「子どもたちのため」になることを念頭に、今後も取り組んでいきたいと思っています。

町小中学校PTA連合会…小中学校PTAで組織されている団体。児童生徒の健全育成と会員相互の連携と親睦を図ることが目的。

婦人会は、地域に密着した会であるという評価をいただいています。しかし、時勢には勝てません。近隣を見渡しても婦人会が存在する町村は少なく、本会会員の平均年齢はグッと上がってきています。婦人会が向かう方向

新規会員募集中



皆川 フミ子さん (横塚17区)
町婦人会 会長

性や具体的な取り組みのあり方など、これからどう期待に込めていくか、会員一人一人が意識を持って取り組まなければいけないと思っています。婦人会は温かい会です。少しでも興味を持たれている人、新しい考えをお聞かせください。

町婦人会…人間愛、郷土愛、奉仕の心を持って婦人としての資質向上、そして明るい家庭生活と住みよい地域をつくるために活動している。

現在60クラブが活動している勤労青少年ホーム(以下、ヤングプラザ)。そのうち9クラブが35歳以下の勤労青少年で構成された青年クラブです。平成2年の開館後、多いときで81クラブ(うち青年クラブが21)が所属。近年はクラブ数の減少が続

コミュニティーの場として



館崎 勇樹さん (高島原28区)
おうらヤングプラザ利用団体連絡協議会 会長

若者が減少する中で、次世代を担う勤労青少年のため、福祉の向上と健全育成を目指します。また、子どもから大人までみんなが集う地域のコミュニティーの場として発展させていきたいと考えています。

おうらヤングプラザ利用団体連絡協議会…年2回の施設清掃活動の他、3月の「おうらヤングフェスティバル」に向けて盛んに活動している。

町図書館は、貸し出し率が県下最高を19年間続けています。しかし、パソコンやスマホの普及、さらに少子化の影響もあり、ここ数年少しずつ利用者が減少しています。世の中全般、活字離れがあり、出版不況といわれているので影響

みんなが集う場所を目指して



阿部 肇さん (男野34区)
町図書館協議会 会長

があることは承知しています。しかし、このままでは図書館の未来は無いので、もちろん「知」を中心にしても、多くの機関や人と協力して、新しいコミュニケーションセンターになることを目指したいと思っています。

町図書館協議会…町図書館の事業計画や決算報告のチェックが主な役割。また、次年度に向けての提案などの話し合いを行っている。

長柄公民館は、平成30年度の長柄公民館まつりを中央公民館で開催しました。広い会場には人が集まりやすく、見学者も増えて交流の範囲も広がりました。共通の趣味を求めた人との出会いが人生を豊かにしてくれる可能性を秘めているのが

公民館と公利連の連携



廣田 和男さん (碓氷20区)
長柄公民館利用団体連絡協議会 会長

公民館活動です。長柄公民館は今後も地域の公民館として、地域に根を張った活動を続けることとなります。公利連は地域の活性化にどのように協力できるかが今後の課題となります。知恵を出し合い進めていきたいと思っています。

長柄公民館利用団体連絡協議会…団体数53、団体員数670人で、各サークルは共通の趣味の下、自立した活動を行っている。

最近、さまざまな理由で育成会に加入されない人が増えているようです。これまで先人たちの努力で継続されてきた育成会をなくさないためにも、子どもたちだけにではなく役員も一緒に楽しめるような活動にしていきたいと考えています。

子どもたちの未来へ



一本木 由子さん (男野34区)
町子ども会育成会連絡協議会 会長

子どもは成長とともに変化していく課題がたくさんあります。それを解決するために切れ目のない支援は不可欠です。子どもたちが他校の生徒と関わったり、育成会役員とふれあったりすることで、豊かな心を育んでくれると思います。

町子ども会育成会連絡協議会…公民館まつりや町民文化祭への参加、ドッジビーやかかるた大会を開催している。

近年、会員の減少や会員一人一人の活動への意識低下が見受けられます。最近では少しずつ改善傾向にありますが、まだまだ将来を見据えると、会存続には厳しい状況です。本来、子どもたちと年齢の近い高校生を中心に、活動していくの

伝えていきたい



廣瀬 大志さん (横塚17区)
町レクリエーション・リーダーズクラブ 会長

が理想。しかし、近年は高校生を取り巻く環境が変わり、活動が難しいのが現状です。それを少しでも改善するために、将来のORLCを担う、小中学生の子どもたちに、活動を通して、積極的に私たちの良さを伝えていきたいと思っています。

レクリエーション・リーダーズクラブ (ORLC)…会員は高校生・大学生が中心。主に小学生を対象とし、地域・野外活動やレクリエーション活動を行う。

何気ないある一言「どこへ行っても同じ人たちに会いますが、この言葉がなぜか頭から離れません。今の私のことなのか。言われると何でも「はい、はい」と引き受けてしまった結果です。いろいろなことができる反面、広く浅い

役務は分担しよう



上遠野 良一さん (坪登22区)
中央公民館利用団体連絡協議会 会長

関わりのため、満足した成果を出すことができません。そこで今、考えるのは、役務の集中化を無くし、できるだけ分担すること。それが、多くの人々と協働した地域社会づくりにもつながるのではないかと思います。

中央公民館利用団体連絡協議会…84団体が所属。主な行事は公民館まつり。新しい中央公民館をいかに効果的に活用できるかを検討している。

「健常者・障がい者関係なく、楽しめるスポーツを普及していきたい」。そんな思いで近年は主にニュースポーツの指導を行っています。しかし、スポーツ推進委員の活動はまだまだ知られていません。私たちが多く利用してもらいたい思いもあ

健康促進にスポーツを



石塚 嘉宏さん (大谷増赤東31区)
町スポーツ推進委員連絡協議会 会長

り、各所での広報・PR活動を行いました。その結果、近年では行政区からお声掛けをいただけることが増えました。行政区によっては毎年利用していたいています。当面の目標は「全行政区で出前教室を」です。ご用命は町民体育館まで!

町スポーツ推進委員連絡協議会…スポーツを通しての健康促進やスポーツ交流に対するアドバイスなどを行う団体。現在、委員20人で活動。

スポーツ活動を通して町民の体力向上と健康づくりを図るため、事業に取り組んでいます。近年の少子化は本協会の運営などに大きな影響を与えています。こうした中でも、事業に取り組んでいるのは、各行政区協役員や各競技団体の皆さん

スポーツこそ身近に



根岸 孝志さん (高島原28区)
町体育協会 会長

のご尽力のおかげと心から感謝しています。スポーツは心身両面にわたる健康増進に資するものです。スポーツへの関心はますます高まると考えます。そのニーズに対応するためのスポーツ施設の整備や充実を図る必要を強く感じています。

町体育協会…生涯スポーツの普及と競技スポーツ強化により、町民の健康増進に寄与することが目的。16の競技部がある。

子どもたちの体力低下と心の問題はつながっているため、幼児期から発育段階に応じた「スポーツ遊び」に取り組みることが重要と考えています。また、「ルールを守り、相手を尊重すること」「勝ち負けに関わらず、全力を尽くすフエ

私たちの使命は何か



近藤 幸一郎さん (高島原28区)
町スポーツ少年団 本部長

「アプレイの精神」を浸透させていくことも大切です。少子化が進む現実があるのは致し方ないとしても、私たちは歩みを止めるわけにはいきません。スポーツを通じて子どもたちの健全育成こそ、私たちの使命です。

町スポーツ少年団…子どもたちのスポーツ活動の受け皿として昭和53年設立。現在、14の単位団、団員数307人が活動している。